

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°43 ノエラ・モランタン

生産地方：ロワール

新着ワイン6種類♪

VdF LBL ヴィエーユ・ヴィーニュ ソーヴィニヨン 2021 (白)

2021年は、霜の被害により収量が大幅減に加えて雨が多く、さらに夏は冷夏でブドウは晩熟だった。ただ、ブドウの房が最初から少なく、また、しっかりと熟すまで待たおかげで、品質的には前年よりもエキスの凝縮したブドウを収穫することができた。出来上がったワインはピュア&フルーティーで、酸、ボリューム、ミネラルのバランスが超絶妙！トゥーレーヌのソーヴィニヨンらしいハーブのフレーバーも心地よく、例年と比べて今から飲んで最高に美味しいワインに仕上がっている！

VdF ラ・ブディヌリー ガメイ 2022 (赤)

ノエラの自社畑が軒並み霜の被害に遭う中、買いブドウのジュリアン・モローのガメイは霜対策が万全であったおかげで、かつてない豊作に恵まれた。醸造は、味わいをエレガントに仕上げるために全て手で除梗。今回からより緻密に仕上がるためにマセラシオン後のヴァン・ド・グートとヴァン・ド・プレスを別々に分けて熟成し、ヴァン・ド・プレスの状態に合わせて最後にアッサンブラージュをした。出来上がったワインは、まるでマセラシオン・カルボニックで仕込んだように酒質がジューシーでチャーミング！最初開けたては還元が少しあるのでカラフをすることをオススメ♪

VdF モン・シェール ガメイ 2022 (赤)

2022年のノエラの自社畑は春の遅霜により軒並み減収。その中でもモン・シェールは、10hL/haと赤の中で最低の収量だった。だが、収量が最初から少なかった分、早熟で中身の詰まったブドウを収穫することができた。醸造は、フルーティーに仕上げるためにマセラシオン・カルボニックを施し、そして、今回からマセラシオン後のヴァン・ド・グートはフレッシュな果実味を残すためにタンク熟成、ヴァン・ド・プレスはワインの角を取るために樽で熟成させ、ヴァン・ド・プレスの熟成状態に合わせて最後にアッサンブラージュをした。出来上がったワインは、果実味がチャーミングでアルコール度数13%とは思えないほどエレガントに仕上がっている！

VdF コー・タ・コー コー 2022 (赤)

ここ数年は熟成に耐えるスタイルにこだわり、力強いワインに仕上げてきたコー・タ・コー。だが、ノエラのコーに関してはデビュー当初のエレガントなスタイルに根強いファンが多く、前年の2021年からクライアントの要望に応える形で醸造スタイルを再びエレガント路線にシフトした。今回はフレッシュな果実味を残すためにマセラシオン後のヴァン・ド・グートはタンク熟成、そしてヴァン・ド・プレスはモン・シェール同様にワインの角を取るために樽で熟成し、ヴァン・ド・プレスの熟成状態に合わせて最後にアッサンブラージュをした。出来上がったワインは、みずみずしく染み入るような、コクのある果実味に清涼感のある味わいに仕上がっている！ノエラ曰く、今飲んで十分美味しいが、あと5年寝かせてタンニンがさらにこなれてくるとさらに色気が増すだろうとのこと。

VdF ル・プランタン 2022 (赤) ☆NEW☆

本邦初リリース！2007年、ノエラがまだボワ・ルキヤの責任者だった頃に植樹をしたピノノワールを2022年にボワ・ルキヤから正式に譲り受け、今回400L樽一樽分だけ仕込んだスペシャル・キュヴェがこの「ル・プランタン」だ。2022年は春の遅霜により収量が取れなかった。醸造は、まだ若木のブドウなのでマセラシオンを短くし抽出を抑えてフレッシュに仕上げた。出来上がったワインは、Primtempsの名前に相応しい若々しくチャーミングな味わいに仕上がっている！ノエラ曰く、ワインは早くから楽しめるタイプだが、ベストな飲み頃としてはタンニンがきれいにこなれるまでできればあと2年くらい待つてほしいとのこと。ちなみに、エチケットにはPrimtempsの文字の横に「春」と漢字が記されている。ノエラ自身、今のキャリアは彼女原点であるボワ・ルキヤに育てられたという思いが常にあり、今回キュヴェの名前を付ける際に、新井順子氏をはじめかつて畑に携わっ

た多くの日本人へのリスペクトと感謝の気持ちを漢字一文字で表そうとすでに決めていたそう。ただ、日本語の発音と彼女の望む意味が一致する漢字一文字がなかなか見つからず、苦労して探した結果たどり着いた文字が「Haru (春)」だった。彼女曰く、Haru という発音の響きが彼女には心地よく、また彼女の一番好きな季節でもあり、はたまた味わいがチャーミングなもの然り、ボワ・ルキヤから新しく生まれ変わった自身のピノノワールをお披露目する意味においても「春」が最もふさわしいと思ったとのこと。

VdF モム 2020 (赤) ☆NEW☆

本邦初リリース！ヴィエーユ・ヴィーニュのカベルネフランをロングマセラシオンで仕込んだスペシャル・キュヴェがこの「モム」だ。2020 年は太陽に恵まれた年で、ブドウはアントシアニンをたっぷり含んでいた。醸造は、円窓付きの 500L 樽の中で手除梗したブドウを 6 ヶ月以上マセラシオンし、ブドウ滓を除いた後さらに 9 ヶ月樽熟させた。ちなみに、6 ヶ月もブドウをワインに漬け込むと、果皮や果肉はほぼ溶け込んで最後は種しか残らなくなるそう！出来上がったワインは、アルコール度数 13%とは思えない繊細さとフィネスがあり、上品なコクに溶け込んだ酸とキメの細かいタンニンが長熟を予感させる！特に、ロングマセラシオンなのにタンニンがウェットなのが凄い！ノエラ曰く、最高の飲み頃を迎えるためにできればあと最低 5 年は寝かせてほしいとのこと。ワイン名はノエラの名 Morantin とパートナーのフィリップの名 Muheim の頭文字を取って「MoMu」と名付けた。また、エチケットのデザインは、友人である画家のミッシェル・トルメーがデザインした。

ミレジム情報

2020 年は、かつてないほどブドウが早熟で収量にも恵まれた年。冬は暖かく雨が多かった。芽吹きが例年よりも早い中、3 月の終わりから 4 月頭に 2 回に渡り寒波が降りたが被害にまでは至らなかった。その後気温が一気に上昇し 4 月中旬から 5 月上旬まで初夏のような暑さが続いた。6 月に入ると湿気の高い蒸し暑い天気が続く、畑ではミルデューの蔓延が心配された。開花は順調。6 月の終わりから一転乾燥した天候が続く、ブドウの成長もさらに加速した。途中猛暑によりブドウの成熟にブレーキがかかったが、収穫前に適度に雨が降り、再び完熟のスピードに加速が増し、今までで一番早い収穫につながった。

2021 年は、ブドウが晩熟で日照の少ない涼しい年だった。冬のスタートは暖かく乾燥していた。4 月 5 日から 8 日の未明にかけて気温が最大 -7℃まで下がる寒波が降り、早熟品種のソーヴィニオンは霜による大損害を受けた。5 月、6 月は気温の上がる雨の多い不安定な天候が続く、ミルデューが猛威を振るった。6 月 4 日に、シェール川に沿うようにゴルフボール並みの大きな雹が降ったが、畑にはぎりぎり当たらず奇跡的に無傷だった。夏は冷夏で気温はそれほど上がらずブドウの成熟にも時間を要した。最終的にブドウの収量は 30%~70%減。ただ、8 月の終わりから天候が回復し、残ったブドウはじっくりとフェノールの完熟を待つことができた！

2022 年は、ブドウが早熟で歴史的とも言える日照りの年だった。冬のスタートは暖冬で雨が多かった。3 月半ばに 5 月中旬並みの暖かさが続いたためブドウの芽吹きは例年よりも早かった。4 月は初めに一転 0℃前後まで下がる寒波が降り、霜対策が残念ながら充分ではなかったノエラの自社畑は霜による大幅減収、そして霜対策を万全に行っていた買いブドウは豊作という両極端な結果となった。4 月の中旬から再び気温が上昇し、それ以降はほとんど雨の降らない日照りが続いた。ブドウの成長の勢いは止まらず、6 月終わりの時点で早期収穫が予想された。7 月に入ると今度は猛暑が加わり、ブドウの成長にブレーキがかかり始めた。8 月は猛暑がいったん落ち着くが、畑は常に水不足の傾向にあった。だが、収穫直前の 8 月終わりから 9 月初めに 20 mm前後の雨が降り、この恵みの雨によりブドウは一気に潤いを取り戻し完熟に向かった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

1月上旬にワインのテイスティングと情報取りにノエラを訪問♪



(写真①) 新しくリリースするピノノワールの畑



(写真②) 枝剪定を長めに取り霜対策に備えるノエラ

現在 10ha の畑を所有するノエラだが、この時期の剪定作業は常に二つの相反する問題と対峙しなければならず頭を悩ませているようだ。まず、一つは人材の問題。剪定は現在ノエラと従業員 1 人、そして週半ばにパートナーのフィリップがパリから手伝いに来て実質 2.5 人分のペースで作業をこなしている。ビオの畑を完璧に管理するにはスーパー経験者は 4 ha、そうでない場合には 1 人当たり 3ha 前後と言われている中で 10ha の畑を 2.5 人で管理するには、新たに季節労働者を雇うか、もしくは剪定を早めに行わなければならない。彼女の理想はもう一人従業員を雇うこと。だが、現在の経営規模では新たに正社員を雇う余裕がない。そうすると季節労働者を探すしか選択肢がないが、今度は経験者の人材不足という問題にぶつかる。芽かきや収穫などの簡単な作業は、日雇いでも畑未経験者でも募集は可能だが、剪定となるとある程度の経験のある人に即戦力になってもらわなければならない。トゥーレーヌはワイン産地なのでもちろん剪定経験者は沢山いるのだが、ノエラ曰く、人材募集となると正社員に多く募集が集まり、季節労働者は時給が良くなければ集まらないそうだ。「時給を良くしても季節労働者はノルマがないので、人によっては作業が遅くかえって剪定が遅れる可能性があり常にリスクが伴う」今年には特に季節労働者さえ求人への応答がない深刻な状況にあるようだ。

人材が見つからないとなると、剪定を早める選択肢をとらなければいけなくなる。現に今はその状態にあるのだが、今度は二つ目の問題である霜のリスク抱えることとなる。ノエラは 2022 年、2021 年と立て続けに 2 回大きな霜に被害に遭った。霜の時期によっては剪定を遅くから始めても効果はないが、それでも彼女は早期剪定が霜の被害を拡大する大きな原因の一つと考えている。「このところの気候変動により冬が暖かく年々ブドウの芽吹きも早くなってきている。人材の少ない我々はそれに対応するために早くから剪定に取り組まなければならない状況にあり、それゆえ常に春の遅霜のリスクと対峙しなければならない問題を抱えている」と彼女は現状のもどかしさを語った。

霜のリスクと人材不足の問題を抱えるノエラ。2 年連続霜の被害に遭った苦い経験から、彼女は今年剪定方法に新たな工夫を加え現状打破を試みる。今までは予め枝を短く切り収量を低く抑える剪定を行っていたが、今年は霜対策を優先し、いつもよりも枝を長めに残すようにした。「今年は、霜対策用に予めロウソクをたくさん購入した。あとは剪定を長めに取りブドウの芽を多く残すことで霜に遭った際のリスクを軽減し、また天気予報を注視し万全の態勢で臨もうと思っている」と彼女は意気込みを語ってくれた。

1 月後半に入りようやく気温がマイナスを下回る本格的な冬が到来した。ブドウの木の休息には冬の寒さが欠かせない。人材不足のなか新たな工夫を試み問題を乗り切る努力家のノエラに、今年はブドウの女神が微笑んでくれることを切に願いたい。

(2024.1.11.のドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ